中学3年　統計使用
国語科　敬語の学習

大阪市立緑中学校　国語科教諭

今、敬語は 必要か?

ステップ① 場面を考える
日常生活の中で敬語を使う場面はどこか。学校・家庭・地域など場面別に整理し、考える。

ステップ② クイズを作る
場面ごとに敬語あり・なしで話しかけた場合の「快・不快」を問うクイズを作成する。

CANVA AI
※すべてのステップに活用
敬語の有無による快・不快をAIで分析し、統計的な視点から敬語の役割を学ぶ。

ステップ③ データを読み取る
CANVA AIを使って回答の統計データを分析し、敬語使用と快・不快の傾向を読み取る。

ステップ④ 必要性を考える
統計結果をもとに「なぜ敬語が必要か」を考え、自分の言葉でまとめ、発表する。

まとめ・振り返り
学習全体を振り返り、敬語の必要性について自分の考えを深め、表現する。

教科
国語　第3学年

単元名
敬語のはたらき

国語科統計教育指導案

大阪市立緑中学校
国語科教諭

学年　　中学校第3学年
指導場所　　教室
単元　　豊かに想像する
単元目標　　敬語のさまざまなはたらきについて理解する。
教材観　　待遇表現の中に敬語表現を位置づけ、相手や場面に応じて表現が異なることを意識させる。中学生だけでなく、様々な年齢や状況を考えて敬語の有無による快不快の統計を取り、今日の待遇表現ついて意識させる。
生徒観　　敬語について学んでいても、どんなときにどのように敬語を使えばいいか迷ったり、敬語は不要だと思っている生徒もいる。日常生活をより円滑に過ごすための敬語について考えさせたい。
指導観　　国語科の授業の中で統計について意識させる。生徒はCANVAを扱えるので、CANVA　AIを活用し、①敬語の有無による快不快を知るクイズを作ること②クイズの回答から年齢状況別の快不快の統計データをとること③統計データから傾向を読み取ること④敬語はなぜ必要か、について協力して学びを深めさせたい。
指導計画　　1限目　敬語を使う場面とセリフを考える　場面別に班分けする
2限目　CANVA　AIを活用し、敬語の有無による快不快を知るクイズを作る
（敬語を使ってほしい、敬語が間違っている、敬語を使わなくてもいい、問題なし、の判断と年齢別の快不快をAIに委ねる）
3限目　自分の班以外のクイズに回答する（自然にしゃべる、敬語を使う）
統計データを抽出、表にして傾向を読み取る
敬語はなぜ必要かについて話し合う
振り返り